



人さあぬはがらにりたかぬのり
 もくさくさくさくさくさくさく
 とよあつとくはくはくはくはく
 せりちちちちちちちちちちちち
 けよあつとくはくはくはくはく
 ちちちちちちちちちちちちちち
 いけあつとくはくはくはくはく





七
 ひろはれとこおろとをりり。家よ阿利
 まじとあぢまふりさひけお。伴
 ねらりれあらしの海流ととゆり。
 うそのいとあうくき山城んて
 後撰
 しも海くもろおがみうらぬ
 とらんありけぬ



姉一此山はみちよきと月れはこりり
 小雲のしきりしきり

新古今

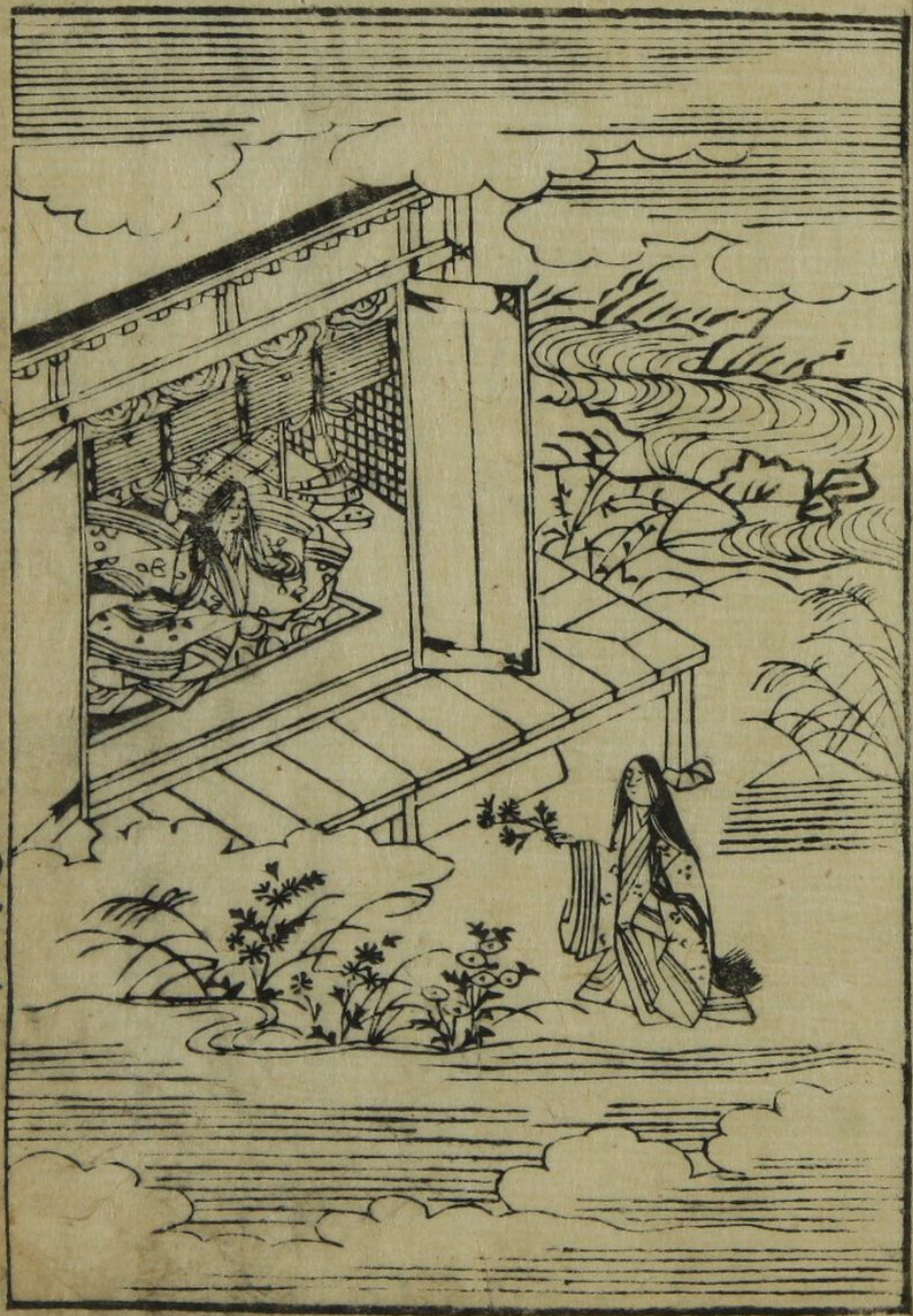
阿一ぬきりしきりしきり
 うらまゝのしきりしきり

井乃屋のしきりしきり
 此山はみちよきと月れはこりり

或説之塩鹿麩ト云物有其反此似山物語曾好早詞寂蓮殊信用先人令辨
 雖為塩麩の早之不用之往年有尋問人怪不知由マ

まらけにけりしをさへしる事もえきぞつら
とれあしをいしれしよ
色あつしをさへしる事もえきぞつら
とれあしをいしれしよ
かろしをさへしる事もえきぞつら
とれあしをいしれしよ
年たつしをさへしる事もえきぞつら
とれあしをいしれしよ
いしをさへしる事もえきぞつら
とれあしをいしれしよ

ま
いしをさへしる事もえきぞつら
とれあしをいしれしよ
かろしをさへしる事もえきぞつら
とれあしをいしれしよ
年たつしをさへしる事もえきぞつら
とれあしをいしれしよ
いしをさへしる事もえきぞつら
とれあしをいしれしよ
日
とれあしをいしれしよ



六
 いかんかありのともむしのみやうや
 ひうち海なる女わらわりの男らうさき
 にも女ういよじんらのけむるあいらんそえき
 乃むれうのりかをとらりてかここむしを
 くらさる井よ白あつぐくあう者乃
 えこむしとむしよああそももん事
 ねとこむしすもみかこもんけか
 知よ白あがうん乃しんげうくあ
 おりきかおんれ神しともみゆ

お暮
おらうぞくはむ此のふ雲はわはる
能はるう解くもさりふりう
とらひたれども世におるりにま
うとくさるひはひる

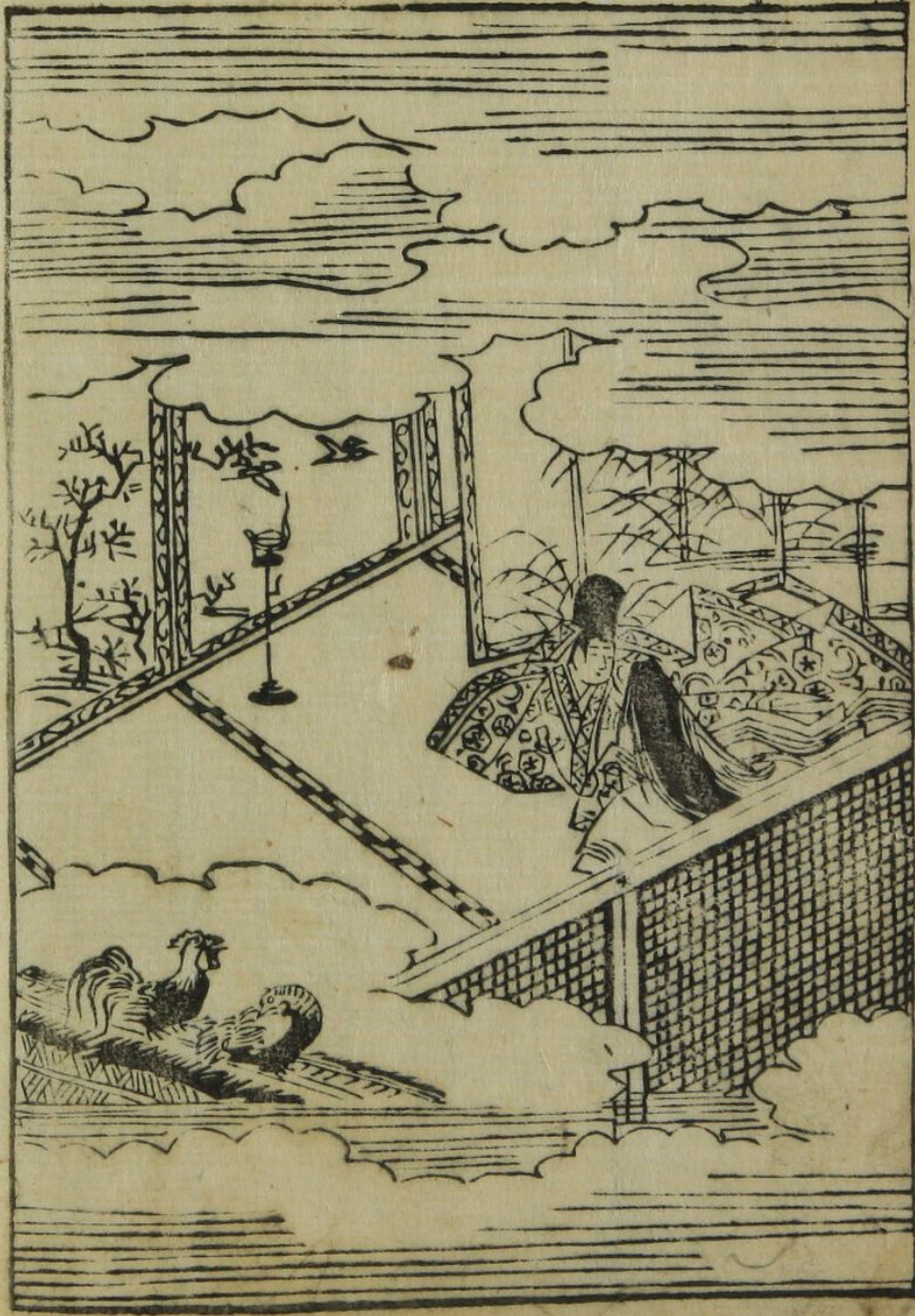
五

ひりし。んらちていんよま
ま(お)ららん女なりし
うれさうんもさるま
ひりしうんまはひる
とらたれども世におるりにま
あひんそらんひるま

水はさうづれてあまうとを
とらひひるまはれおら
まはる事どもさるひ

秋はよのらうておら
やらう。はあはと記の
也

秋はよのらうておら
とらひひるまはれおら
まはる事どもさるひ
とらたれども世におるりにま
あひんそらんひるま



昔の申りつゝいゝきあつたのあぢも井井を
 とらおしてあそびにたつたれど女も男も
 女もをばうらゝしてあつた男も女もをば
 めとあつた女も男もをばつたあつたあつた
 といふらんをばうらゝしてあつた男も女も
 といふらんをばうらゝしてあつた男も女も
 といふらんをばうらゝしてあつた男も女も
 といふらんをばうらゝしてあつた男も女も

昔の申り

昔の申り

とらひぎらゝぬらひけきぞ
あぢいからまゆこほこらやうとくして
ワヂウーうどうほりーみきよ
やうきとらんとーたれど廿
あぢいからひきとせうしちうしち
あぢいからみよらあぢいからあぢい
とらひぎらゝぬらひけきぞ
しとくしちうしちうしちうしち
ひしりぞ志水のあぢいあぢいあぢい
なりあぢいあぢいあぢいあぢい

此をうけ

あひちりぞうたぬあぢいあぢい
まぐさのあぢいあぢいあぢい
とらひぎらゝぬらひけきぞ
ひしりあぢいあぢいあぢい
あぢいあぢいあぢいあぢい
あぢいあぢいあぢいあぢい

古今
あぢいあぢいあぢいあぢい
あぢいあぢいあぢいあぢい

あぢい

あぢい

けおめれ

おのせむしん^のおぞん^のおむしん^の
おえんと人よりおむしん^の
ひり^のおむしん^のおむしん^のおむしん^の
けり^のおむしん^のおむしん^のおむしん^の
我らぞおむしん^のおむしん^のおむしん^の
ゆり^のおむしん^のおむしん^のおむしん^の

也

おむしん^のおむしん^のおむしん^の
あいらん^のおむしん^のおむしん^の

八

おむしん^のおむしん^のおむしん^の
おむしん^のおむしん^のおむしん^の
おむしん^のおむしん^のおむしん^の
おむしん^のおむしん^のおむしん^の

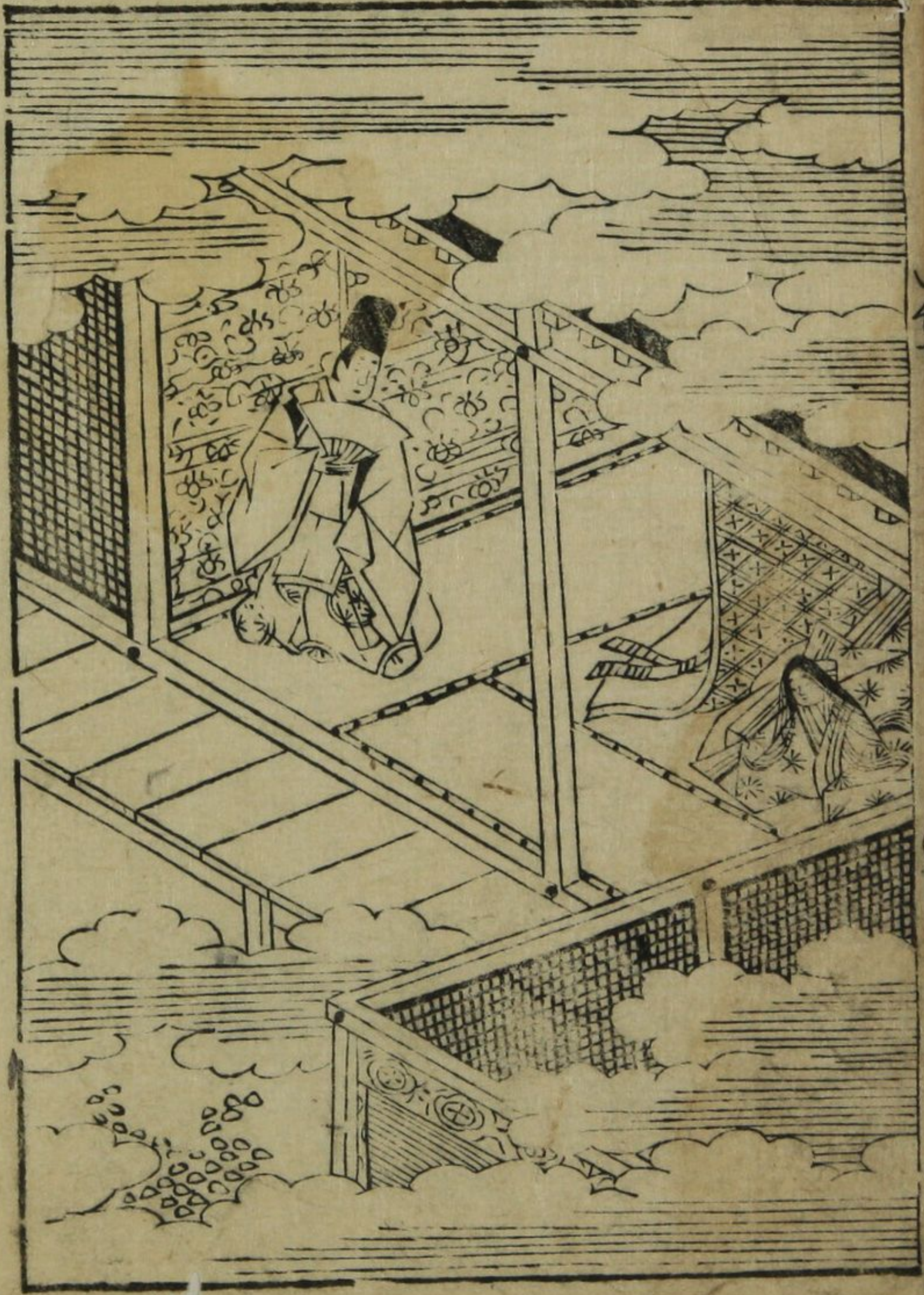
九

おむしん^のおむしん^のおむしん^の
おむしん^のおむしん^のおむしん^の
おむしん^のおむしん^のおむしん^の
おむしん^のおむしん^のおむしん^の

淳和天皇

宗子内親王 母攝 船子正

三十一



びー男あつりさるこゝろに
 ちよとていふはなれはなれ
 とらぬ人かたはなれはなれ
 とらぬ人かたはなれ

朝あつりさるこゝろに
 ちよとていふはなれはなれ
 とらぬ人かたはなれはなれ

又たこゝろ
 ちよとていふはなれはなれ
 とらぬ人かたはなれはなれ
 又たこゝろ



主
 ひろしにやと人なりかきしんしん
 たりあり

うるしうらたじ秋さるい

とはやあしり

ざんせう

魁ふせららめ

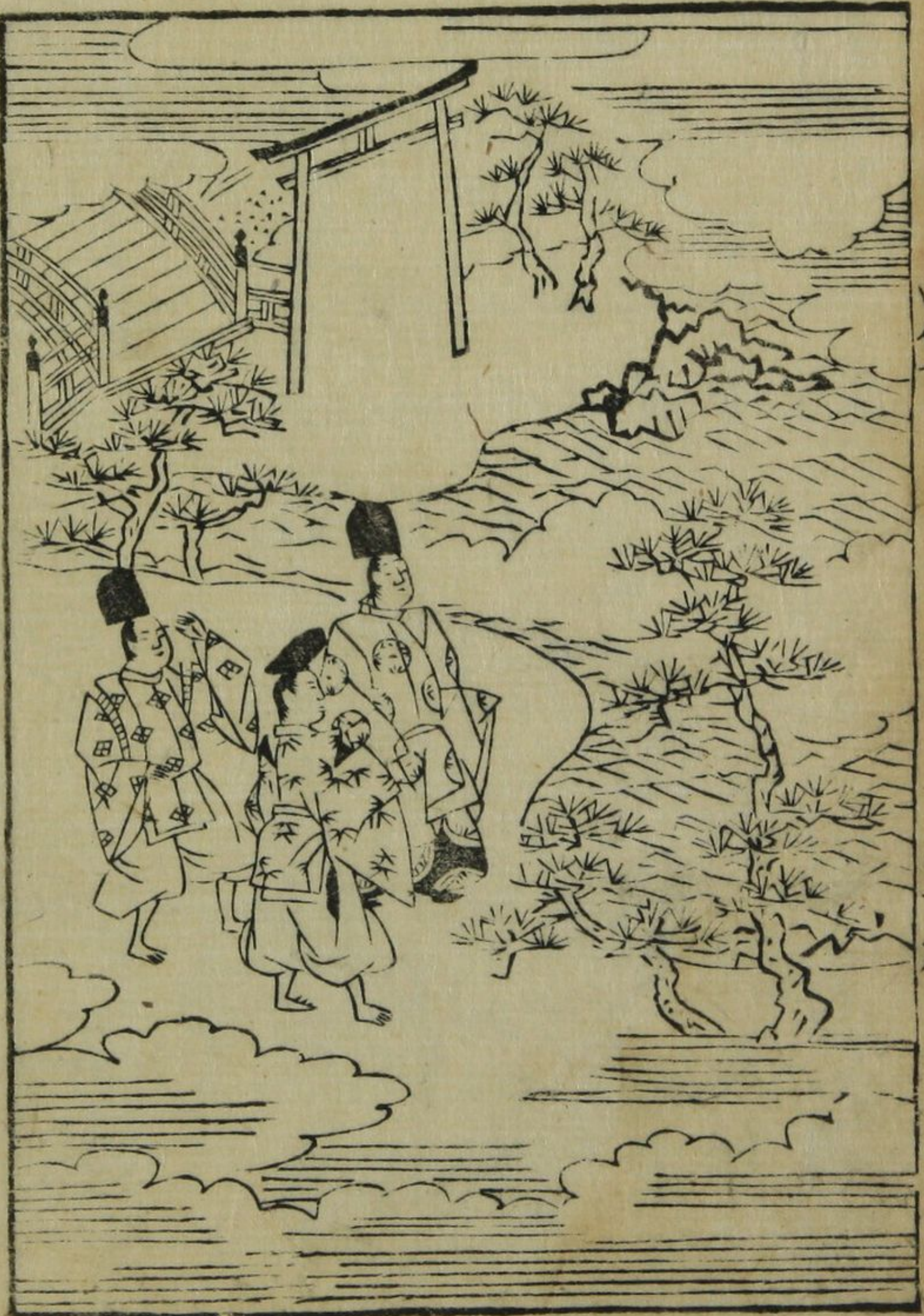
録さへつ進めん也

今今の世にふゆふゆとていふぬおおゆふは
毎作みゆきくりにいふいふとていふ
 水乃おれ清河のほとけにおちやまをいひあま
 ぞめどれは后より。又糸持のゆいとも
清和天皇鷹犬遊漁之娛未嘗曲意風姿甚端嚴如神性
 ひり男津のらあまのゆふありけおにわ
 ぬねしきもあまらぬいぬてけふふをねし
 よつといふり。さねとていふるが船も乃
 わゆをみく
 さふいげとていふるのうらむ

されやこれよはらみよはらみ
 二道とあつたがらとていふるよなり
 昔男せうしおふおまらうかはる福を
 いひこれあまのいづりよはらむらうら
 小舟にゆれよとていふるをねしあま
 ぬふお雲やまはあまのうらりていふ
 うれはり。あまのうらりよはらふあり
 とていふていふる中いひいふるよはら
 きいふるお雲れらあまのうらり
 花れんやいづりていふる

五

五



免

昔はとまがりぞれ男侍場のまよが。あつひ
 おいさひかよの侍被れ袂まよりか合のお
 やつ子れ使よりいびんよりいれとひやま
 りされむむむむむむむむむむむむむむ
 りりりりりりりりりりりりりりりりりり
 て新しき後よいづむむむむむむむむむ
 まであつんとりあつむむむむむむむむ
 けむむむむむむむむむむむむむむむむ
 わあむむむむむむむむむむむむむむむ



ちよきごらぬるいひるるうせごえあつたは根をうく
 むきちんとすうはれよびつゝいりつゝはれいづつて
 さういふちとつていづゝいりあつていふまじい
 うらち人乃とこれどぬまゝあえあゝあまじ
 とういしてすまゝあゝあゝいづゝいづゝいづゝ
 いちり乃とまかしてあのをとあぢつていづゝ
 まゝいあゝあゝいづゝいづゝいづゝいづゝ
 とてあられがおもりのあゝあゝあゝあゝあゝ
 秋あゝ水乃たれは時文徳天皇ははむいづゝ
 あまじにうれいづゝいづゝ

佐子内親王



幸
 ひりし木とさるまはるいふりふりさけお
 おもひのさるまはるいふりさけお
 まるまはるいふりさけお

新草
 んふめうはかこやいれとぞさやけし
 けしおしりしあはるつりあは

主
 昔男のせう紙さるあはる使とてあはるを
 まるまはるいふりさけお
 らるまはるいふりさけお
 拾送
 人丸
 木やまはるいふりさけお
 井しこ



若首氏れ中よりさしひきられぬつりけりけりぬやよ
 くとまよもそけりけりぬやけりけりぬやけりぬや
 けりぬやけりぬやけりぬやけりぬやけりぬや
 さしひきられぬつりけりぬやけりぬや
 あまのつりぬやけりぬやけりぬや
 せむあまのつりぬやけりぬや
 半ひきられぬつりぬやけりぬや
 けりぬやけりぬやけりぬや
 人ありけりぬやけりぬや
 吉守ぬやけりぬやけりぬや

若首

三十五



一海也...
 志...
 流...
 と...
 を...
 たり...
 海...
 志...
 一海也

て。母の心も。まづ。おれ。人。え。ら。て。雪。ふ。ぬ。り
あ。め。し。き。い。ら。ま。と。し。と。親。と。て。ま。あ。り。たり
尊行奇古今なり。ども。身。現。し。け。秘。ぞ。め。れ。を。ぬ
雪。れ。つ。る。ゆ。ぞ。り。つ。が。ら。後。は。な。は
と。も。あ。り。は。い。と。び。い。ら。さ。う。あ。れ。が。り
後。あ。ら。く。ゆ。ぞ。ぬ。さ。て。後。つ。り。ひ。ら。い
ま。ひ。い。ら。し。ま。ら。れ。た。と。し。つ。ら。さ。ぬ。を。あ。ら。い
たり。たり。もの。く。あ。や。ま。た。れ。は。は。み。せ。り。い
し。と。金。ふ。たり。年。じ。う。ら。て。女。は。か。よ。は。れ
心。ざ。し。い。ら。ん。と。や。ら。ひ。ら。ん。男。う。し。は。ん

よみそやまのりきり

今。ま。で。ふ。い。ら。ぬ。人。を。せ。あ。も。わ。じ
約古今を。の。が。い。ぬ。く。し。れ。な。ぬ。ま。じ。と
と。く。も。ふ。ら。り。の。思。も。女。を。あ。ら。い。し。ぬ。ま。ぬ
も。は。つ。く。し。ら。ん。て。よ。は。な
昔。男。は。の。あ。じ。と。た。あ。り。あ。は。れ。甲。は
志。は。し。と。い。ら。し。と。い。ら。り。昔。の。し。い。い
わ。し。を。あ。ら。い。ら。ぬ。あ。ら。い。ら。ぬ。あ。ら。い
つ。ぎ。の。と。ら。し。あ。ら。い。ら。ぬ。い。ふ。たり
と。よ。み。ら。ぬ。そ。こ。に。れ。ま。し。と。い。み。ら。ぬ。あ。ら。い。ら。ん

昔

今



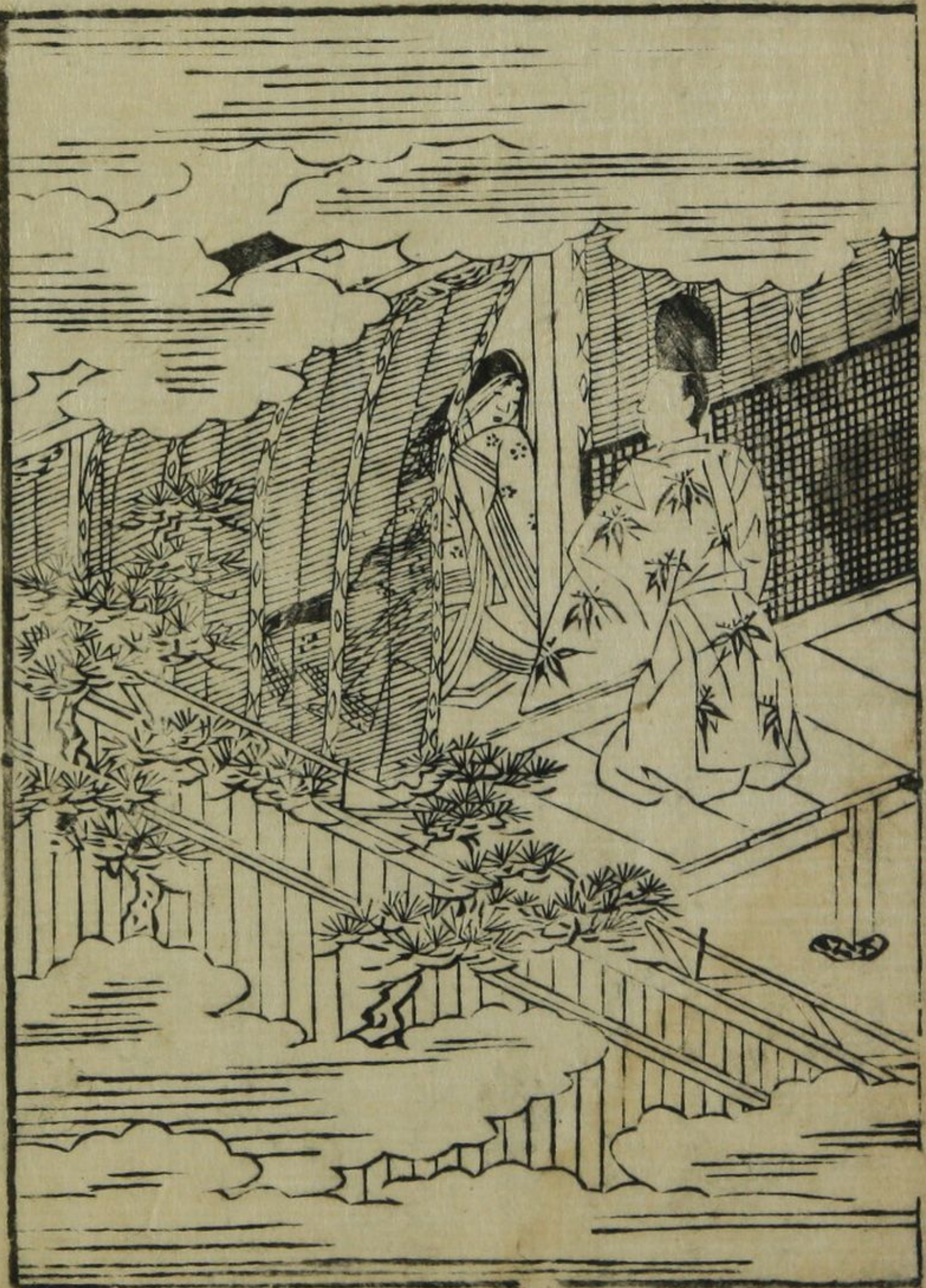
ありらほみらと現くさうせみ一美内郷
 りらうーが家ぬまへらあよ目られぬ屋と
 りれうの城もやまのあまのりあり火あや
 くみゆらふれあゆー乃れとこよむ
 をゆゑのりーのあまの葉うも
判古今
 けがすむるれあゆらこく火の
 とまみそあふりりまぬそれあみさこの
 風ゆゑは浪りさうーはとあてそらあれ

五
 五

五
 五



先乃こももらたはるはなほなみあを
 られしるるるるるるるるるるるる
 むぐいふふふふふふふふふふふふ
 うーうーうーうーうーうーうー
 かまきり
 うーうーうーうーうーうーうー
 うーうーうーうーうーうーうー
 井のうへのももももももももももも



三十九
 三十九

六

ひらけぬはらばらけりあふくくくく月
 目あきらめぬまゝあふくくくく月
 おりしつらんくわんれとらひきりうら
 けし月乃ららむらりなるもれが女男お
 ういふまじかきしやまをまじりあひのま
 ちあひのまお乃ちのれし。あまのあまの
 とあひのまのまのあひのまのまのまの
 秋風吹さらさんまはらるるあまのま
 りりひらけり。あひのまのまのまのま
 こころはそれ人のまのまのまのまのま



夏
 ひろくねとこあつらなり。そのふゆざりなれ
 ど世中一紙行のいさり。さらばき利。あま
 な海女乃あまふなり。世中しとおりの
 じぶとてあまのそあ。ほろほろあまのふ
 とにすまらり。ひと志ぞくさりけり。ぞ
 ろみて居りけり。

夏
 そひひとて雲ののいぬのまのれど
 世れう現しとそ。うらふあつたそ
 とがらんりの居りけり。あまのまのれ
 ぞろくねとこあつらなり。そのふゆざりなれ

夏
 夏
 夏

皇
 びりーあてる御男ありたり。それたところあり、
 成る御人御内記よきまゝ原^{敏行母名虎女}とてゆき
 とよみかみかみたり。御まじりていづりたれど
 あまもあまのこゝろす。あまのこゝろす。い
 ちかづかひんやういふ御まじりけしむが
 ああ。あまのこゝろす。あまのこゝろす。あまのこゝろす。
 つまらぬあまのこゝろす。あまのこゝろす。あまのこゝろす。
 是まじりてのちかづかひんやういふ御まじりけしむが
 神のこゝろす。あまのこゝろす。あまのこゝろす。
 ぬーまじりてのちかづかひんやういふ御まじりけしむが

亭
 あまのこゝろす。あまのこゝろす。あまのこゝろす。
 男さかんが御まじりてのちかづかひん
 とりりけしむが御まじりてのちかづかひん
 御まじりてのちかづかひん。あまのこゝろす。あまのこゝろす。
 なあ。あまのこゝろす。あまのこゝろす。あまのこゝろす。
 ありたり。あまのこゝろす。あまのこゝろす。あまのこゝろす。
 御まじりてのちかづかひん。あまのこゝろす。あまのこゝろす。
 て御まじりす
 亭。あまのこゝろす。あまのこゝろす。あまのこゝろす。

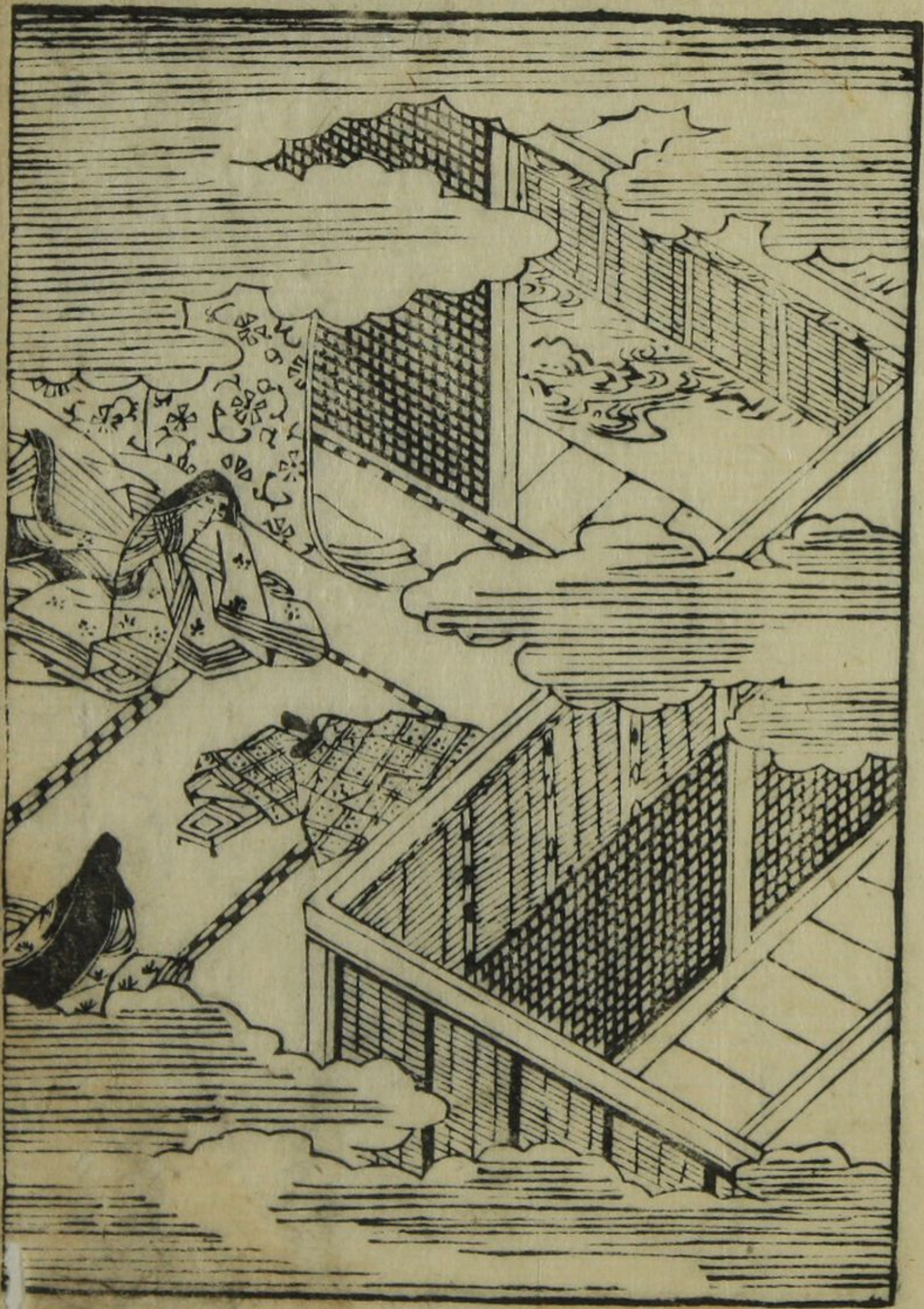
男減一は雨の降りぞもあはれ
とよらんこもきりけりかみろもくま
かあんで志しこおぬれしもよりの
見せし一女のうらみはうらみ

風あひなむなむ波あはれりもちれ
らうぐりうもよれうらみ
こ流しゆれいといふはうらみ
きつ男
よ井とつらうらみのうらみ
水しをゆられぬいあうらみ

見 昔たここ女ごらぬ人とうらみ
よゆりけあ

古今花よも人もあはれ
紀元のけしきはさきふあはれ
ひう一男みそくよわらぬも
とよらんあはれいあはれ
りうらみをゆれぬ

見 昔男をんどもは女のゆり
あはれくみえらぬゆり
あはれくみえらぬゆり



おちんづきとてしほの

おちんづきとてしほの
新古今
 いしきせよらりしそめさ

奥
 ひろし男とてしほの

毛髪とてしほの

古今とてしほの

を作者
 人ぬえぬとてしほの

見
 昔ながらとてしほの

古今とてしほの

を作者
 とすつとてしほの

眞
ひらにこそ女もあはれし世にこそあはれし
ぞ人れはもやうよまはれし世にこそあはれし
らやどいふ

わあもれおほく梅もつらうらうせらん
はさるる人のさるるさるる

眞
ひらにこそ梅つやうらうらうらうらう
のまうらうらうらうらう

うぐいすは花はぬくそふゆもが
ぬくゆふよらうせらん

色

うぐいすは花をぬくそふゆもが
ぬくゆふよらうせらん

眞
すうらうらうらうらうらうらうらう
人

眞
山一峰れ井そのお水もあはれし
ぬれうらうらうらうらうらう

とらうらうらうらうらうらう

眞
昔にこそあはれなりあつたよすこけ
女もやうらうらうらうらうらう
うらうらうらうらう

古今 年々 人々 心々 事々 物々 色々 声々 味々 触々 思々 行々 住々 坐々 臥々 立々 行々 住々 坐々 臥々 立々 行々 住々 坐々 臥々 立々

女也

野とさるるが流るるにぬてるれとらん

とさるるまげあよめぞ。梅うんとあぶ

心さくはらりさるり

ひりしおとさるるぬりきあはれたて

いりあはりあつあつあつ

あふあつあつあつあつあつ

あつあつあつあつあつ

あつあつあつ

ひりしおとさるるぬりきあはれたて

くあつあつあつあつあつ

古今 流井くち道とさる

あつあつあつあつあつ

あつあつあつあつあつ

あつあつあつあつあつ

あつあつあつあつあつ

古今

古今

伊勢物語新刊也酷多矣然京極黃門一本之奧書云此物語之根源古人之說今不同云而今以天福年取彼与孫女木正之猶恐有字畫之差互聊加訂校又圖卷中之趣而分為上下蓋為令好事童蒙悅目也於戲予老懶衰惰而不堪辨鳥豕豈純謬博合君子攸匡季幸甚

元禄十七甲孟春日

出雲寺和泉掾用板

定本

